指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市西山児童館
2 指定管理者	特定非営利活動法人仙台YMCAファミリーセンター
3 指定期間	令和5年4月1日~令和10年3月31日
4 施設の利用状 況	《利用者数》 ・令和6年度 23,180人(前年度比 128.0%) ・令和5年度 18,107人 ・令和4年度 16,145人 《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・指定管理者に支払った費用 45,237千円(41,485千円) ・その他市が負担した費用 0千円(0千円) 《収入》 0千円(0千円) ・その他収入 0千円(0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者説明会を実施。

<u>二 管理運営に係る評価(モニタリングシートの結果によって評価)</u>			
評価分野	所見	評価	
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33	
Ⅱ 施設の運営管 理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	31/31	
Ⅲ 施設・設備の 維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や 鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組み も実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24	
IV サービスの質 の向上	リーフレットや児童館だよりの発行、ブログの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28	
v 施設固有の基 v 準	児童クラブにおいては、こども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。地域との交流事業においては、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。	19/19	
1/2			

三 評価総括

《指定管理者(特定非営利活動法人仙台YMCAファミリーセンター)による自己評価》

令和6年度の年間利用者数は23,180名となった。児童クラブの登録数増加が利用数増加の大半を占めることもあるが、乳幼児や自由来館の小中学生の利用が昨年度よりも増加傾向の1年となった。

【児童健全育成】

中学生の職業体験受け入れについては、例年の西山中学校に加え幸町中学校の生徒の受け入れも行った。燕沢包括支援センターの行事に参加協力するなど地域の施設としての働きを体験してもらうことができた。

【子育て家庭支援】

鶴・燕・西子育て支援ネットワーク活動では、子育て支援に関する情報交換、共催乳幼児親子向け行事「子育て応援広場」を令和6年度も開催することができた。

宮城野区子育て支援部会に協力し、ママらいふ手帳の作成や配布、手帳講座「はっぴいママカフェ」の開催も新規開催場所を増やすことができた。

【地域交流推進】

児童館祭り、クリスマスコンサートなど地域の方向けの行事を実施することができた。

市民センターのお祭り、小学校PTAバザーへの協力を通して地域交流の推進に携わった。

【放課後児童健全育成】

学校教室タイムシェアのサテライト運営は3年目を迎え、対象学年を3、4年生とし、過ごし方ついて検討を重ねながら1年間運営にあたった。タ 方の過ごし方について、子どもの自由度を広げ、職員によるレクリエーションの時間も自由参加にするなど、遊び方を少しずつ変えていった。 長期休業中の運営に関しては子どもたちが充実した1日を過ごせるよう、令和6年度も職員によるプログラム提供を工夫して行うことができた。

《施設設置者(仙台市)による評価》

児童健全育成事業においては、小中学生ボランティアグループ「ニシヤマセブン」が自然体験活動や児童クラブ行事・地域事業への協力等を通して、豊かな感性と課題解決能力を育むとともに、地域における未来の担い手の育成に取り組んでいる。また、児童クラブを卒所した中学生が、遊びを通した小学生との交流や職員との関わりを求めて来館しており、地域における居場所となっている。

子育て家庭支援事業においては、「にしやま茶屋」を定期開催し、読み聞かせボランティアによるお話し会の他、お誕生会、季節の行事の後の茶話会など、地域における情報共有や仲間作りをするための参加者同士の交流の場となっている。また、「つくるもん」を令和6年度は「つくってあそぶもん」に変更し、遊べるおもちゃを親子で作って遊戯室で遊んだり、季節を感じる制作活動が参加者から好評を得ている。

地域交流推進事業においては、クリスマスコンサートを開催し、西山中学校の吹奏楽部による演奏や児童クラブのハンドベル発表を楽しみに地域の様々な世代の方が来館し、交流が図られている。また燕沢地域包括支援センターの依頼を受けて高齢者対象のイベントに初めて参加し、健脳健骨運動の実施した他、職場体験の中学生と高齢者がクイズ等を通して交流し、近隣地域に向けて児童館事業の認知度を広げる取り組みとなっている。

放課後児童健全育成事業においては、児童クラブ便りの月刊発行の他、夏休みに向けた児童クラブ説明会後に保護者交流会を開催し、児童クラブの活動を保護者に伝えて理解を得られるよう努めるとともに、保護者行事を実施して保護者との協力関係を築いている。また長時間児童クラブで過ごすことになる長期休業日において、こどもが見通しをもって生活できる支援として、本館・サテライト別の活動プログラムを作成している。また夏休みには週に1度レトルトの日を設けて、保護者の負担軽減を図るとともにこども主体の昼食の取り組みが行われる等、児童クラブの生活に様々な工夫がみられている。

総合評価

S

四 その他特記事項 (上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する)

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課